

366 新しいモノクローナル抗体を用いたCEA測定法 (CEA-II) の臨床的評価

春木 義範, 和田 耕一
(健和会大手町病院 R I 室)

近年, CEA特異部分を認識するモノクローナルを用いた, 3-site IRMA法によるCEA測定キット (CEA-II, 第1RI) が開発され検討する機会を得たので報告する。

基礎的検討の結果, intra およびinter-assay のCVはそれぞれ 2.68 %, 3.23 %であった。希釈直線性も良好であった。臨床的検討として対象に悪性疾患例 129例 良性疾患例 69例, 合計 198例を用いて本法とA社のEIA法との比較検討をおこなった結果, 相関係数 $r = 0.901$ と良い相関性を示したが, 解離例が 41 例出現したので, その臨床成績について報告したい。

367 IRMA法ペプシノゲンI, II (PG-I, PG-II) ペアキットの基礎的検討, 及び, 胃癌での測定意義について.

木村良子, 阿多まり子, 宮川直子, 藤井崇, 片岡正明, 棚田修二, 飯尾篤, 浜本研 (愛媛大学放射線科)

胃壁細胞より胃液中に分泌されるペプシン不活性前駆体PG-I, II は一部血中にも存在し, 胃壁での分泌状態を反映していると報告されている。今回, 新たに開発されたIRMA法によるPG-I, PG-II のペア測定キット (Pepsinogen I/II RIA-BEAD, ダイナボット) の検討を行なった。このキットは, 異なるモノクローナル抗体を用いたone-step法で, インキュベーションは室温1~3時間で十分であった。最小測定感度はPG-I 0.18 ng/ml, PG-II 0.4 ng/ml, 正常人 192人の血清PG-I 19.1~166.6 ng/ml (mean 56.0), PG-II 2.7~59.6 ng/ml (mean 14.9) PG-I/PG-II比は, 1.2~10.8 (mean 4.9)であった。胃癌症例での測定意義を合わせて報告する。

368 新しい腫瘍マーカーCA-130測定キットの臨床的検討

中村立子, 中島鉄夫, 松下照雄, Caner Biray, 外山貴士, 小鳥輝男, 石井靖, 鳥塚莞爾* (福井医大放, 副学長*)

CA-130は2種類のモノクローナル抗体を用い, CA-125類似の抗原を測定するキットである。我々は本キットを用い, 正常者及び悪性疾患における血中CA-130濃度を測定し, 若干の知見を得た。正常者群では, 男性: 10以下 ($N=59, m \pm SD$), 女性: 14.5 ± 5.8 ($N=12, m \pm SD$) とCA-125と同様の値を示したが, 女性には性周期に応じた変動が明らかな高値群と変動が少ない低値群があり, 全体として月経期に高値を示す傾向が認められた。悪性疾患群ではCA-125と同様の傾向を示し, CEA, CA19-9とは相関を認めず, TPAとは弱い相関が認められた。CA-130はCA-125と類似しているが, 正常女性群中に認められる亜群の差異などについて, さらに検討の余地がある。

369 抗原決定基の異なる2つの抗体を組合せた新しい高感度CA125 IRMAの開発

中井敏晴, 国松美帆子, 遠藤啓吾, 佐賀恒夫, 渡辺祐司, 河村泰孝, 小泉 満, 小西淳二 (京大・放核), 藤井信吾 (京大・婦), 松岡洋一郎 (三重大・放), 中島鉄夫, 鳥塚莞爾 (福井医大・放)

IRMAでは異なる抗原決定基を認識するモノクローナル抗体を組合せると, 測定感度が著しく上昇することが知られている。そこで, 我々の作成した抗体 145-9と市販のキットで用いられている抗体OC125の2つの抗体を組合せた新しいCA125測定用IRMAを開発した。OC125あるいは145-9をそれぞれ1種類のみ用いたIRMAに比べ, I-125標識OC125と145-9固相化ビーズの2つの異なる抗体を用いたIRMAでは, 特に低CA125領域でのビーズ結合放射能, 結合率が著しく増加。CA125測定感度が上昇し, 低濃度での測定の精度, 再現性が改善された。

370 血中CA125測定値に及ぼす月経周期の影響

佐藤あけみ¹⁾, 高橋孝子¹⁾, 菊池いづみ¹⁾, 板垣勝義¹⁾, 辻野大二郎²⁾, 加藤義郎²⁾, 染谷一彦²⁾, 林和彦³⁾, 石島光³⁾, 鈴木廉三朗³⁾ 1) 聖医大放射線部核医学 2) 同大第三内科, 3) 同大産婦人科

卵巣癌の腫瘍マーカーであるCA125は, 子宮内膜症妊娠などで高値を示すことがあり又, 月経周期による変動も報告され, 臨床診断上の留意点となっている。今回我々は, 健常婦人の月経全周期における血清CA125値の詳細な変動を検討した。また, 産婦人科系・内科系の疾患を伴った場合の臨床例における月経周期に伴うCA125値の変動につき検討を行ったので報告する。